

校訓	真善美	令和6年度 学校通信 「荒中だより」 3月 弥生 第33号	発行日	令和7年3月21日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる		発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

第44回卒業証書授与式を厳粛かつ盛大に挙行できましたことに心より感謝し、お礼申し上げます。

「卒業生答辞」

今、旅立つ日。見える景色は違っても、遠い場所で、君も同じ空、きっと見上げているはず。

ご来賓の皆様、保護者の皆様、在校生の皆様、職員の皆様。本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式を開いてくださり、ありがとうございます。入学してから今日まで、多くの支えの中、過ごしてきました。卒業を目の前にして、たくさんの思い出が蘇ります。

1年生、学年目標は「レッツトライ」。何にでも、まずは挑戦の1年目。

自分には少し大きすぎる制服。小学校から一緒の子も、制服のせいちょっと違って見えるし、初めましての顔も多くて、緊張した入学式。最初は学校生活のルールを覚えることが大変で、授業を受けて部活をして、家に帰るころには疲れ果てて、これから毎日こんな生活を続けられるか、心配になるほどでした。やっと慣れてきたところに行った神鍋高原。天候に恵まれ、大自然の中、たくさんの活動をすることができました。思い出と言えば、キャンプファイヤー。目をつぶって、顔をあげて、そして目を開けてみたら満天の星空。伊丹では見られない、宝石を散りばめた夜空に、口をぽかんと開けて見入ってしまいました。特別な経験が互いの距離をぐんと近づけ、今日まで続く友情が芽生えました。1年生の日々は、小学生ギャップとの闘い。先生や先輩、同級生に対する敬意の示し方を覚え、出された課題をコツコツこなし、テストの結果に一喜一憂する。今、当たり前にはできることは、あの頃毎日を必死に過ごしたから身に着いた、中学生らしさだと思います。

2年生、学年目標「we can do it」。限界を決めずに突っ走った、中学校2年目。思い出すのは、2学期がととてもとても忙しかった、ということです。11月、トライやるウィーク。準備万全で挑みましたが、緊張した初日。お店の利益に関わったり、人の命に関わったりする仕事に触れさせてもらい、ものすごい責任のもと、大人たちは仕事をしているのだと感じました。クタクタになって家に帰り、家族に自分の経験したことを話していると、毎日早くから遅くまで働いてくれている家族に尊敬の念を抱きました。嬉しかったのは自分たちの活動が、多くの人に褒められたことです。先生目を離れた初めての活動。学校で教わったことを活かせたと思います。12月は校外学習で大阪へ。天候に恵まれ、汗ばむほどの晴天の中、事前の計画に沿って進みました。マナーを守り、ルールを守る。周囲からどんな風に見られているか想像しながら歩く。学校に戻った時、大成功の校外学習だったと言ってもらえました。自分たちは外に出ても、きちんとできる集団になってきている。「やればできる学年」が「やっぱりできる学年」と言われるようになったのもこの頃で、自信が持てるようになりました。学校生活にすっかりなじみ、もう荒牧中学校の主役気分だった2年生の僕たち。けれど時には、今まで感じたことのない不安や怒りを覚えることもあって、くよくよ悩んだり、人に八つ当たりをしたり、不安定な時期もありました。それでも時間はどんどん過ぎ去り、自信と不安をたっぷり抱えて、私たちは3年生へ向かっていきました。

3年生、学年目標「New Standard」。挑戦を加速させ、同じ方向を見ながら進んだ最後の一年。始まりは、自力での新大阪集合。校外学習の経験を活かし、遅刻者ゼロ。自信を確信に変えて、最高の修学旅行が幕を開けました。修学旅行の一番の目的、それは、平和を学ぶこと。最初の目的地は、太刀洗。たくさんの青年が、「国のために」と、飛び立った地。空襲により、たくさんの幼い命が奪われた場所。特攻隊員が書いた家族あての手紙には、父や母、幼い兄弟の安寧を願う気持ちが溢れていて、言葉になりませんでした。午後には平和公園でセレモニーを行いました。これからの世界を生きる私たちは、何をすればいいのか。平和学習を通して、ずっと考えてきました。私たちはたくさんの愛情の中で生きています。そんなわたしたちだからこそ実現できる平和があるはず。その思いを平和祈念像のもとで誓いました。澄み渡る青空でした。誓いの瞬間、私たちの思いを運ぶように、2羽の鳩が祈念像から飛び立ちました。長崎市内を巡った班別活動、みんなでたくさん盛り上がった学年レク、三日目に立ち寄り、合格を願った大宰府。色鮮やかな思い出ができた3日間でした。夏休みが明けて2学期、進路も行事も、最後までみんな一緒に。体育大会は先輩の跡を引き継いでダンス。振付から生徒で考えて作り上げました。本当に踊れるのか心配。でも、みんなと一緒に作り上げることは本当に楽しい。体育大会当日は、私たちらしく元気いっぱいに踊り切ることができました。

最後の合唱コン、みんな火花を散らしました。各クラス、練習開始の日から全身全霊。強い気持ちをもって取り組んだ合唱練習は、そのクラスだけの特別な時間でした。本番は甲乙つけがたい、審査員泣かせの出来栄え。遙か彼方まできつと届く、記憶に残る合唱ができました。瞬く間に時は過ぎ、ついに迎えた卒業の日。たくさんの支えがあったから、笑顔で過ごすことができました。今、感謝の思いでいっぱいです。

僕は、部活動で多くのことを学びました。初めて見たバレーボールの光景を今でも鮮明に覚えています。ボールを巡る駆け引き、激しく響く声。先輩たちの真剣な顔、姿。どれも新鮮で、憧れました。けれど、甘くない現実。思うようにプレーできないうちに、どんどん上達していく仲間たち。不安と焦りに襲われ、くじけそうになる日々。でも、その度に立ち上がり、強くなっていった、絶対にこのチームで全国大会へという思い。迎えた、県総体二日目、準決勝。勝てば近畿大会。相手のチームには、これまで負けなし。やるべきことはやってきた。勝てる試合だと、どこかで思っていました。1セット目をとられたとき、聞こえたのは、何とか流れを断ち切ろうとする先生やみんなの声。そして、頭の血管がちぎれるほど叫ぶ自分の声。相手のマッチポイント。ボールがブロックに当たり、自分たちのコート中央へ落ちる。絶対に届かないと頭ではわかっていた。それでも体は動き、自然とボールに向かって手を伸ばしていた。中学校生活、最後の一球。悔しさで頭が真っ白になる。先生の優しいねぎらいの言葉に、涙が止まりませんでした。家族よりも長い時間を過ごしてきた、仲間と先生。一緒にどの練習も、必死に取り組んできました。ボールが落ちるあの瞬間、僕の体を動かしたのは、その誇りです。人への感謝、努力の意味、続けることの価値。部活動に打ち込んだ時間は、二度と忘れられない宝物になりました。本当にありがとうございました。

先生方、職員の皆様、大変お世話になりました。たくさんの支えの中で過ごした3年間でしたが、特に、3年生の先生方には、楽しい時も苦しい時も一緒に過ごしていただきました。すぐに泣いてしまう先生、えらいと大きな声で褒めてくれる先生、厳しく優しくピシーとさせてくれる先生。個性豊かな先生方に見守られて、今日を迎えることができました。たくさん叱られました。自分が悪いと気づいていたのに、素直になれず、反発することもありました。でも、僕たちはその中で少しずつ成長していたのだと思います。行事でも入試でも、僕たちはたくさん褒めていただきました。出会った人には挨拶をし、公共の場ではマナーを守る。自分たちが当たり前にしてきたことは、結構すごいことなのかもしれない。やっと先生方が、なぜ一生懸命に指導してくださったのかわかり、感謝の気持ちを持つようになりました。僕たちは、先生の自慢の生徒になれたのでしょうか。楽しい時は一緒に笑って、悲しいときは一緒に泣いた、先生たちと、もっと一緒に過ごしたかったです。正直に言うと、今、少し不安です。けれど、少し大きくなった僕たちの背中を、見守ってください。今までありがとうございました。

いつも一番近くで見守ってくれた家族へ。中学校に入ってから「勉強しなくて大丈夫？」とたくさん心配されたけど「今するところやった！」と決まり文句でいつも困らせました。それでも、三年間ずっと言い続けてくれてありがとう。朝起きたら朝ごはんがあって、帰ってきたら体操服が洗濯されている。その当たり前にたくさん支えられてきました。やりたいことができるのは、毎日、一生懸命働いてくれる家族のおかげです。

今年は、進路を決める年。私の思いを一番考えてくれて嬉しかった。だけど、最近は勝手に大人になって一人でなんでもしてきたつもりでいました。進路のことでたくさんの書類にサインをしてくれる姿を見ると、やっぱりまだまだ私は子供で、支えられていると実感します。これからは、お母さんやお父さんが与えてくれた、これからの可能性に全力で私らしく向かっていけたらと思います。たまに周りが見えなくなって、迷惑をかけることもあるけれど、その時はまたいつも通りたくさん叱ってください。なかなか素直になれないけれど、ずっと感謝しています。これからもよろしくお願いします。

3年生のみんなに伝えたいことがあります。別れを前にして思い出すのは、休み時間の何気ない会話、テストが終わった瞬間にはしゃいだこと、一緒にふざけて怒られた日。いつも身近にあった当たり前の時間が、今は何より尊く感じます。今まで大変な経験も、悲しい経験も、乗り越える時に横にいてくれた仲間が、明日からはもういないと考えると心細いです。また笑いあったあの時間に戻りたい。私の一生の宝物です。ありがとう。私たちは、これから何度もこの日々を思い返すでしょう。心に浮かぶ情景には、いつもきれいな空とたくさんの笑顔があります。もう会えないけれど、この先困難を前にしたとき、きっとこの日々が私たちを支えてくれるはず。これを希望と呼ぶのだと思う。今、旅立つ日。見える景色は違って、遠い場所で、君も同じ空、きっと見上げているはず。

3年前の入学式、私たちの代表として前に立った生徒が、感謝の思いを抱いて入学すると話しました。それは、過酷な災害や理不尽な戦争が絶えない世界の中で、不自由なく進学をすることができたからです。

今、あの日より大きな感謝と希望が胸にあふれています。

私たち卒業生一同は、荒牧中学校で過ごした日々を糧に、自分で決めた道を、希望を胸に、精いっぱい歩んでいくと誓い、これを別れの言葉とします。

令和7年 3月14日

生徒代表 I.A.、K.M.、D.K.、N.T. ♪ピアノ A.A.、M.N.